

河合心理学における「場の倫理」「個の倫理」
- 心から読み取る文化と教育のあり方 -

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
木下 智香子

人の歴史はとても長いです。その中で人々は様々な思いを抱えながら暮らしてきました。長い歴史の中で、どの国も独自の文化を形成してきました。文化には人々の心が反映されています。人にはずっと昔から心があります。そこには時代が変わっても変わらずにあり続ける心と、時代に応じて新しく生まれ変わる心とがあります。そのどちらの心も大切にしながら私たちは日常生活を送っています。

私は対人援助学領域で対人援助学について学びました。対人援助学を学ぶ上で、人とは何かについて考えることは誠に重要な事です。人には心があります。人の心から見てくることは数多くあります。対人援助学とは人と人との交流の中で出来上がるものです。人と人との交流の中で、教育は必要不可欠です。すべての人は生まれた時から育っていく過程で何らかの形で他者からの教育を受けます。教育にもまた人々の心が反映されています。私は人々の心を読み解くことで、教育や文化とはどのようなものであるかについて明らかにしました。そして人々の心のあり方はどのようなものかについて論じました。

人はあらゆる倫理観を持っています。物事の本質を見定めるためには二つの倫理観があることを知ることが必要です。二つの倫理観を河合心理学では「場の倫理」、「個の倫理」と名づけています。「場の倫理」とはみんなが平等であることを重視し、その場の釣り合いが取れている事に価値を置く倫理観です。また、「個の倫理」とは、一人ひとりのしたいことを行う事によって充足する気持ちや一人ひとりが成長していくことに価値を置く倫理観です。この二つの倫理観のバランスの取り方が教育や文化の発展に大きな役割を果たしています。「個」が集まり「場」となります。個人個人の努力から国が成り立っています。「個」として一人ひとりの心の中と「場」として集団における人々の心のあり方はどのようなものかという二つの視点から論文を作成しました。

教育や文化の発展や一人ひとりの個人のために大切なことは、それぞれの倫理観の良い所を取り入れ、自分のものにする考え方を身につけることです。また柔軟性を持ちながら本来ある格式や文化を保ち、大切にすることです。つまり、本来ある格式や文化の良い所を残しつつ、新しいものの良い所も取り入れ、一人ひとりが自分のものにしていき、実行することです。そして、時代によって変わる文化に対応していくため、次の世代を担っていくすべての人たちの教育に力を注ぐことが文化や教育の向上に繋がります。これからも人々にとって教育はなくてはならないものであり、非常に重要なものです。そのため今後どのような教育を行っていくべきかを考え、論文の課題としています。